# マイクロライン剪刀を用いた腹腔鏡下大腸切除

岐阜大学医学部附属病院 消化器外科

准教授　松橋 延壽 先生

【学歴及び職歴】

1996年　3月　大阪医科大学卒業
1996年　4月　岐阜大学　第2外科入局　研修医
1997年　5月　岐阜県立病院　外科　研修医
2001年　4月　岐阜大学　腫瘍外科(旧第2外科)大学院
2004年　4月　岐阜大学　高次救命治療センター　臨床講師
2006年　7月　岐阜県総合医療センター　外科
　　兼救命救急センター部長代理
2012年　1月　岐阜大学　腫瘍外科
2012年　4月　岐阜大学　腫瘍外科
　　がん先端医療開発学講座　講師
2013年　4月　岐阜大学　腫瘍外科
　　がん先端医療開発学講座　准教授
2019年　10月　岐阜大学　消化器外科　准教授

【所属・職名】

日本外科学会(代議員・指導医・専門医)
日本消化器外科学会(評議員・指導医・専門医)
日本内視鏡外科学会 技術認定医(大腸)
日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター(直腸)
日本大腸肛門病学会(専門医)
日本食道学会(認定医)
日本救急医学会(専門医)
日本消化器がん外科治療(専門医)
日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)
日本消化管学会(指導医・専門医)
DMAT 統括DMAT

ご所属は2021年10月当時の情報です。

監修

岐阜大学医学部附属病院 消化器外科

教授　吉田 和弘 先生

現在、ロボット支援手術は消化器外科領域においても保険収載されたとともに、多くの施設で急速に行われるようになりました。しかしロボット手術における教育的問題にはまだまだ多くの課題があるのも事実です。若手外科医が腹腔鏡手術からロボット支援手術に移行する際に役立つと考える当科の取り組みを紹介します。

## はじめに

当科は2012年に腹腔鏡下大腸切除について、術式と共に使用するエネルギーデバイスについても同様に定型化を行った。剝離と切離はモノポーラ高周波(VIO soft凝固含む)および超音波凝固切開装置を使用している。精緻な手術を行うことを目的としているため、微小出血でも早期に吸引管にモノポーラ高周波(soft凝固)を通電し、止血を行い、術野をドライな状態に保つように心掛けている。2018年のロボット手術の保険収載に伴い、当科でも直腸癌を対象にロボット手術を積極的に導入し始めた。そこで、現在ロボット手術へのスムーズな移行を可能にする上で適した腹腔鏡下手術のデバイス選択について検討している。今回、この観点から当科の腹腔鏡下手術で導入している手術手技やエネルギーデバイスの使用方法・注意点などを紹介する。